

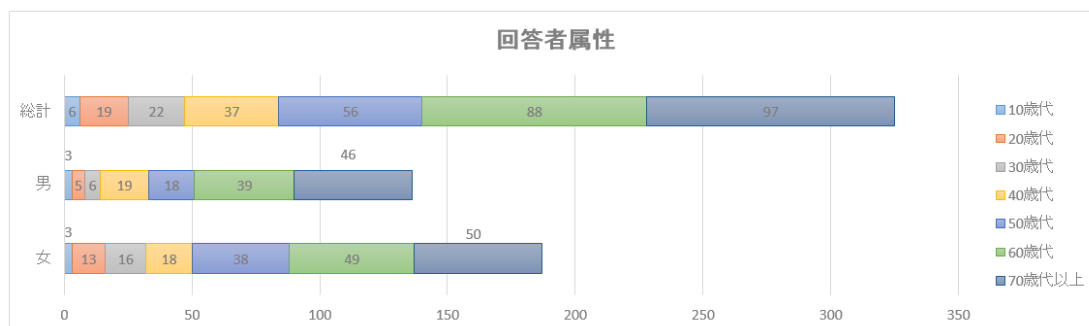
山縣市男女共同参画に関する市民意識調査

実施期間：平成28年7月26日（火）～8月19日（金）

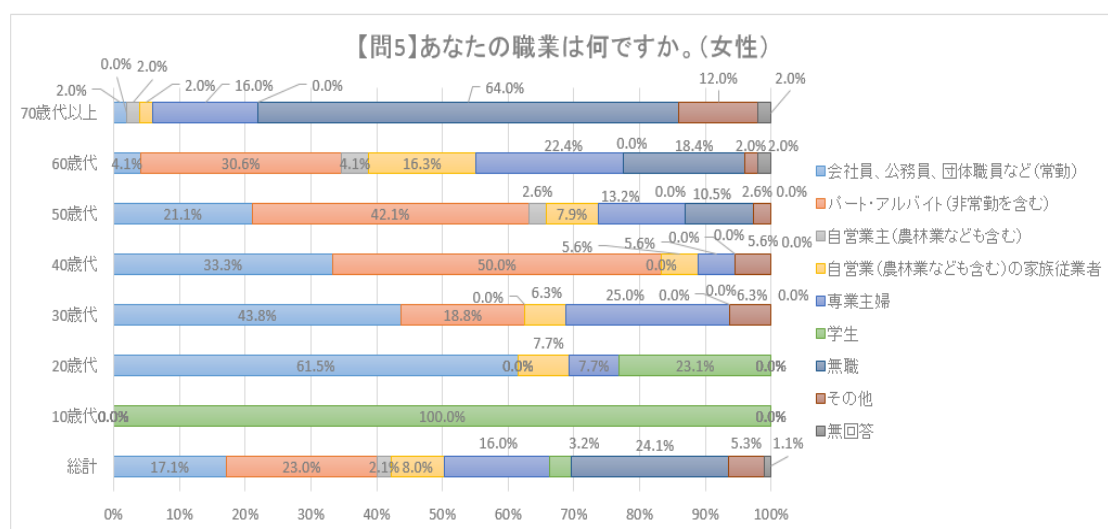
調査人数：市民1000人（男性500人、女性500人を住民基本台帳から無作為抽出）

有効回答数：n=328人

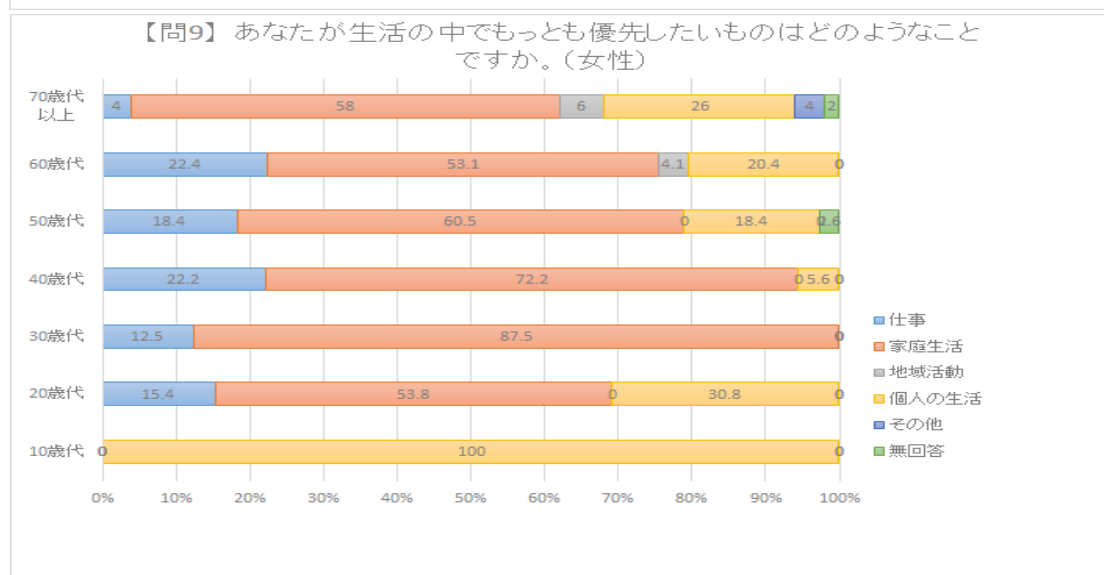
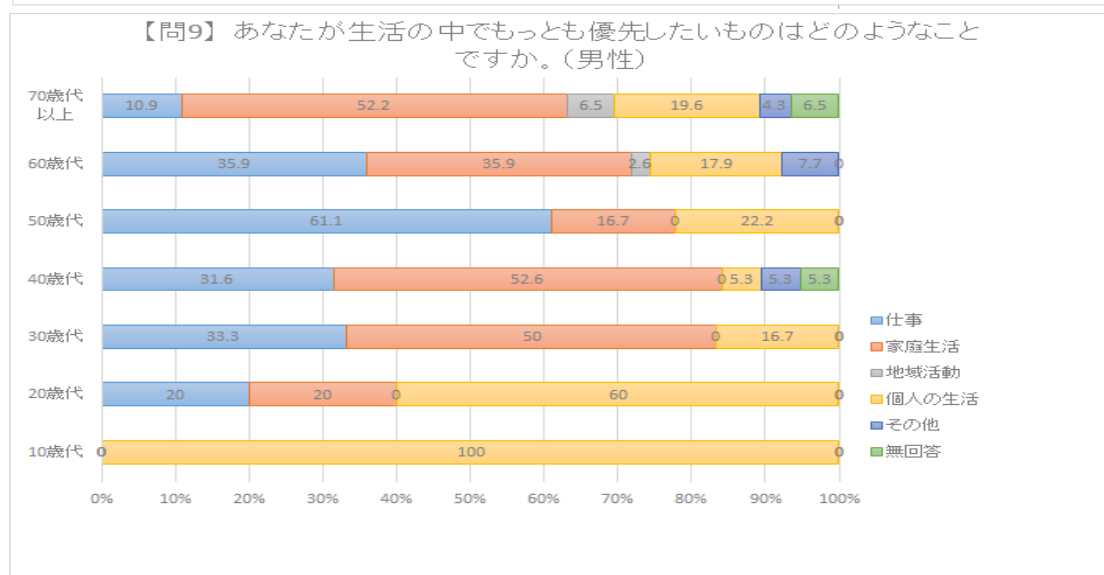
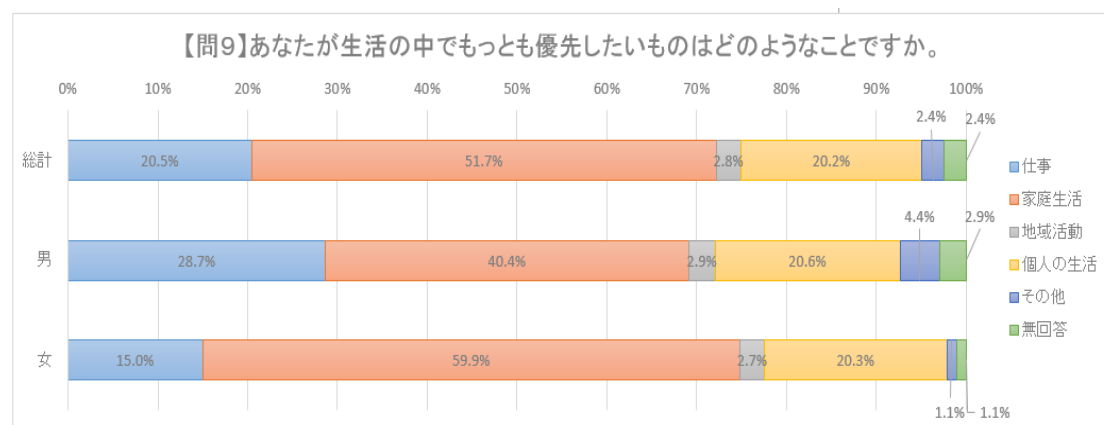
回答者は、男性136、女性188（性別無回答4）と、女性の方が多くなっています。
また、年代別では、10代6、20代19、30代22、40代37、50代56、60代88、70代以上97と、年齢が上がるほど回答者が多くなっています。

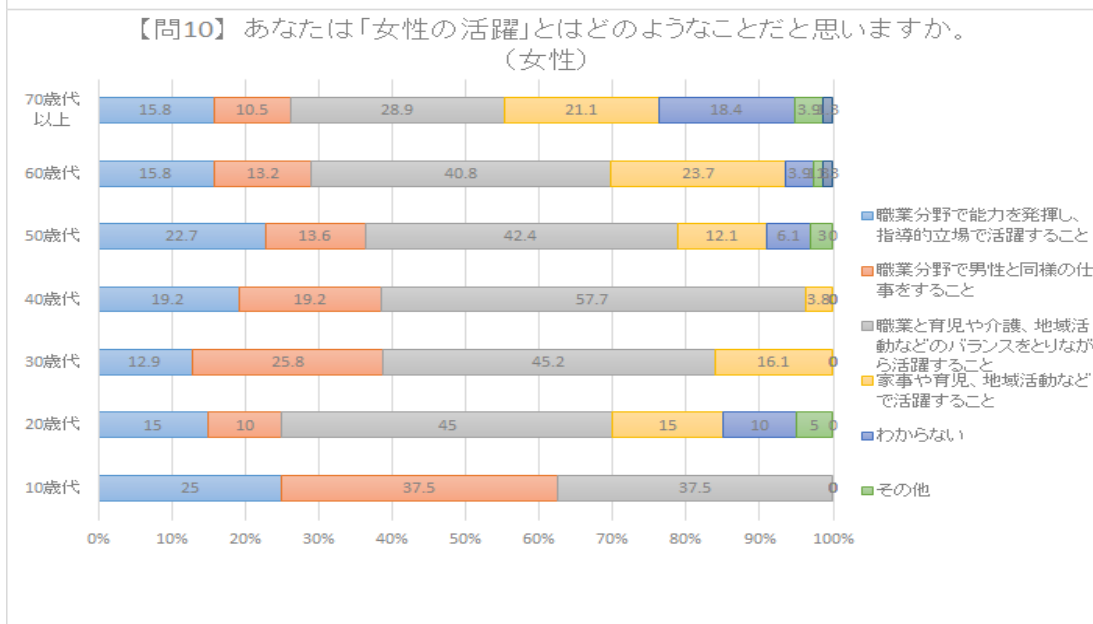
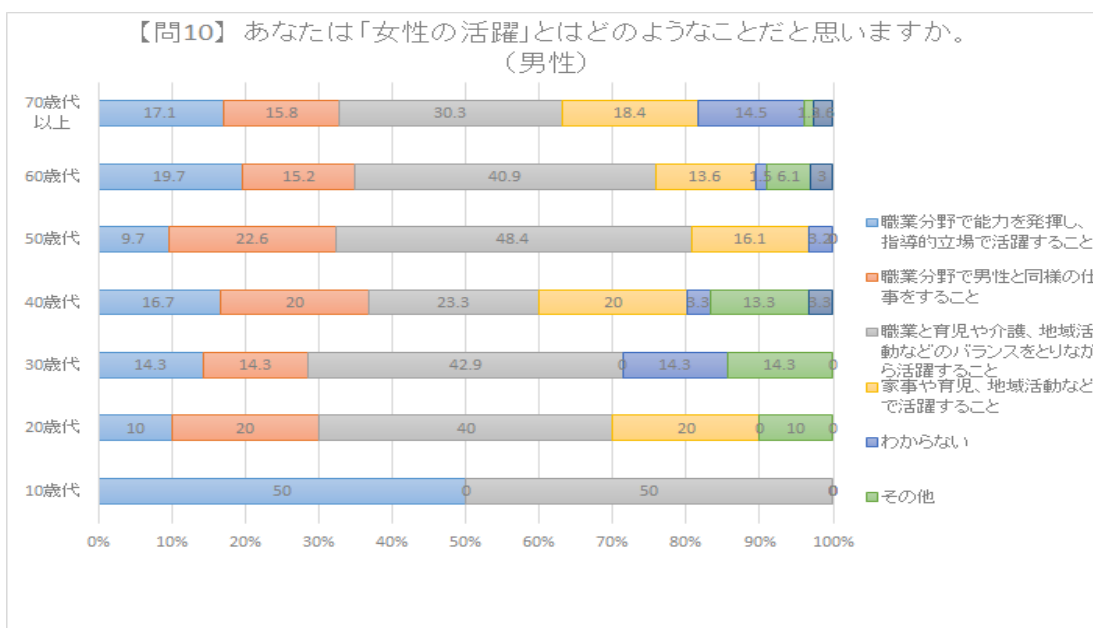
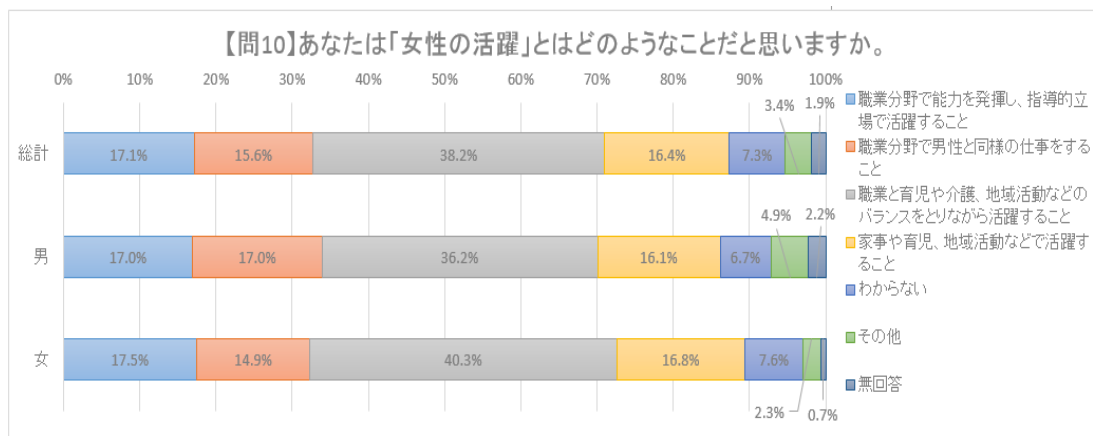


女性の働き方について、「10～20代」は学生か常勤の正社員が多く、「30代」は常勤の正社員が減少して専業主婦が増加しています。「40代」以上は専業主婦が減少し、非常勤のパートとして働く女性が増加しています。

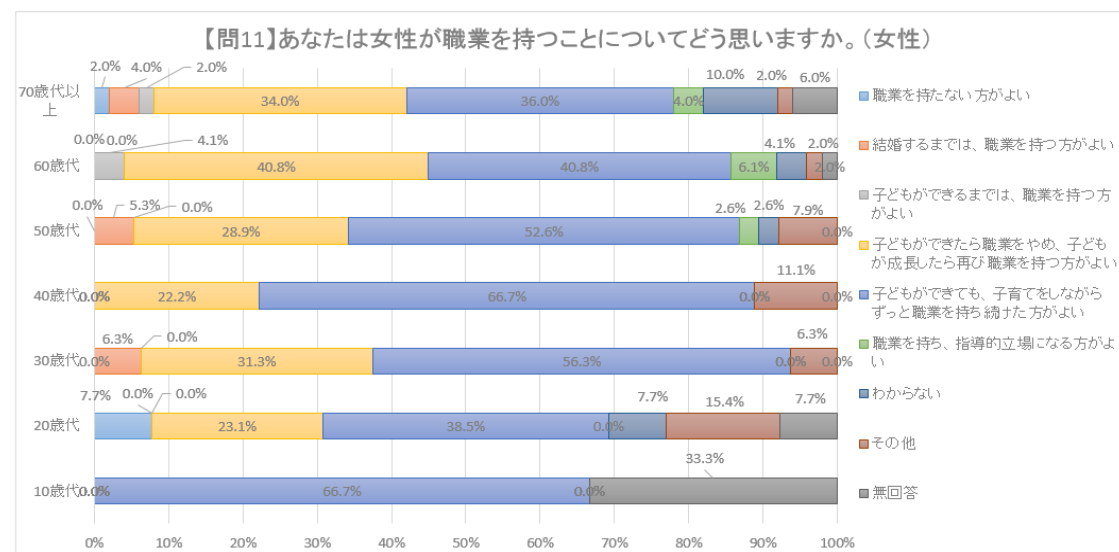
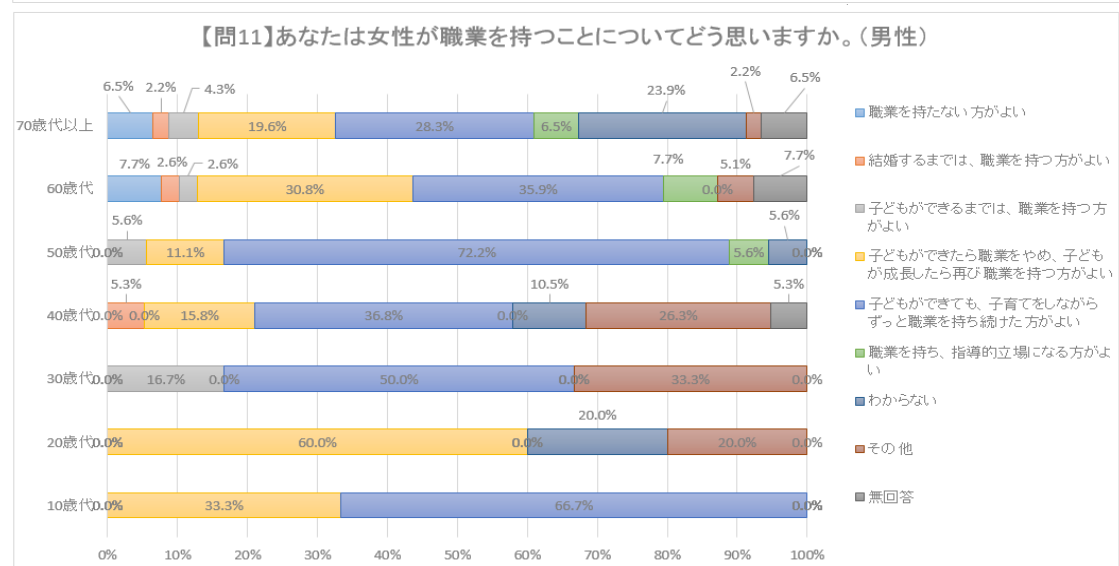
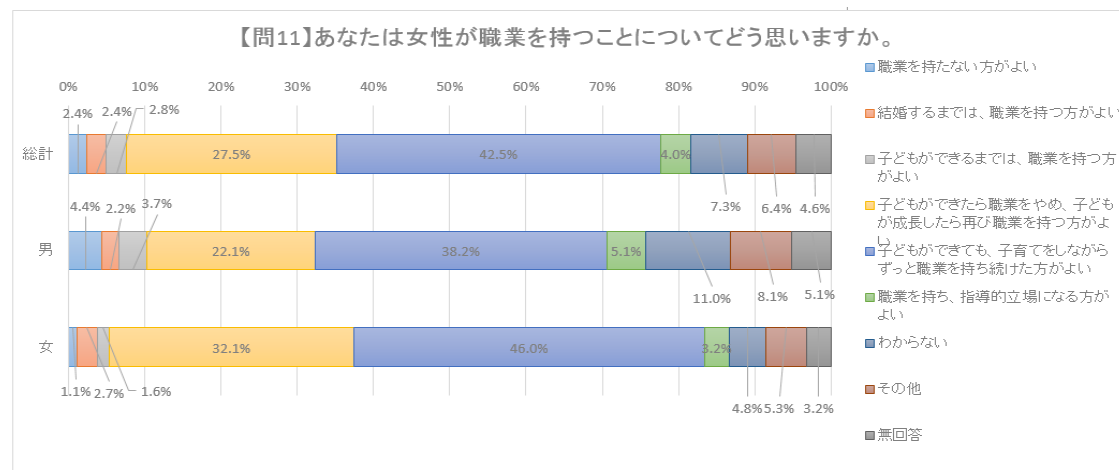


「生活の中で最も優先したいもの」については、男女ともに子育て世代は「仕事」と「家庭生活」を、若年と高齢世代は「個人の生活」を優先したい人が多く、「女性の活躍とはどのようなことだと思うか」については、男女ともに全世代「職業と育児や介護、地域活動などのバランスをとりながら活躍すること」を最も多く挙げています。



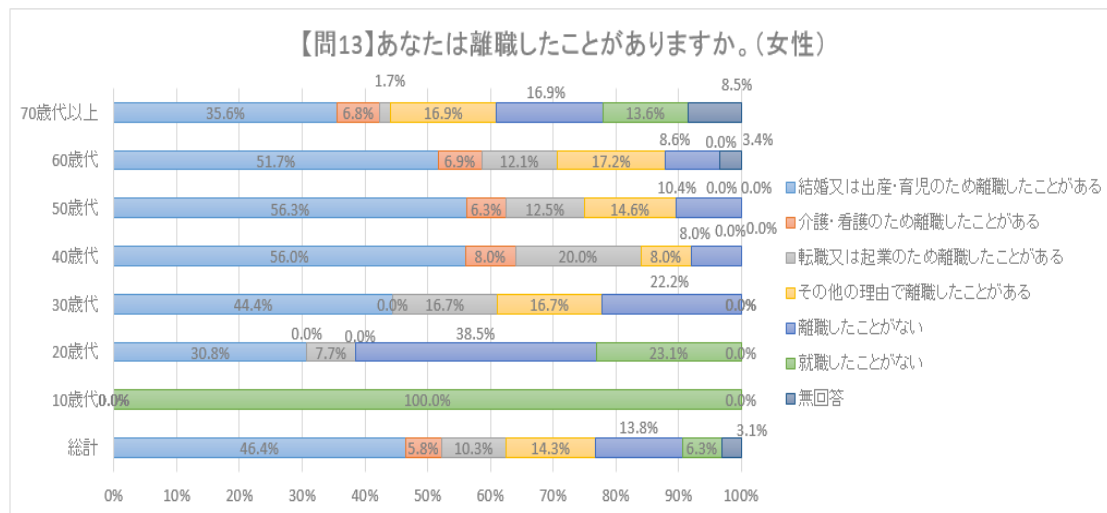


さらに、「女性が職業を持つことについてどう思うか」については、男女ともに、平成22年度調査では全世代「子どもができたら職業をやめ、子供が成長したら再び職業を持つほうが良い」が最多だったのが、今回はほぼ全世代で「子どもができて、子育てをしながら職業を持続けた方がよい」が最も多い回答となっています（推移については p.18 参照）。

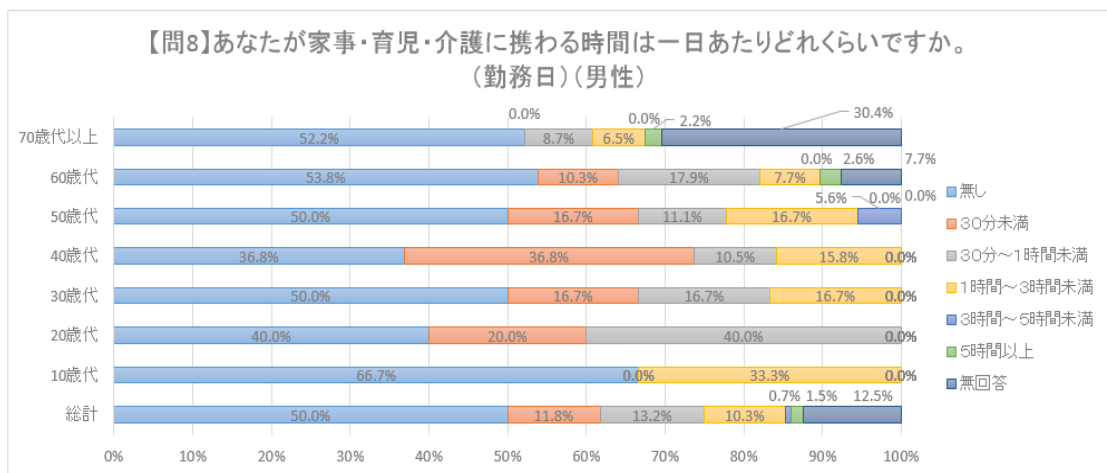


以上のことから、男女ともに、家庭・地域活動と仕事にバランスよく携わりたいと思う市民が多いと考えられます。

「離職」については、女性の離職理由の半数近くが「結婚又は出産・育児のため」と答えており、「子どもができて、子育てをしながらずっと仕事を持ち続けた方がよい」という女性が多い一方で（p8参照）、出産子育て等のため離職する人が多い状況にあります。

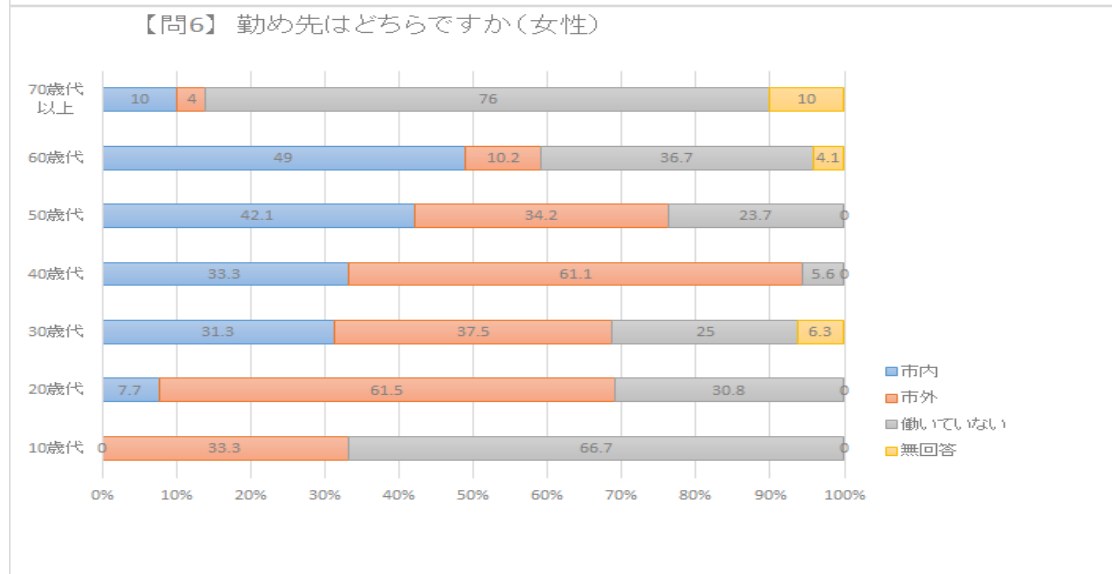
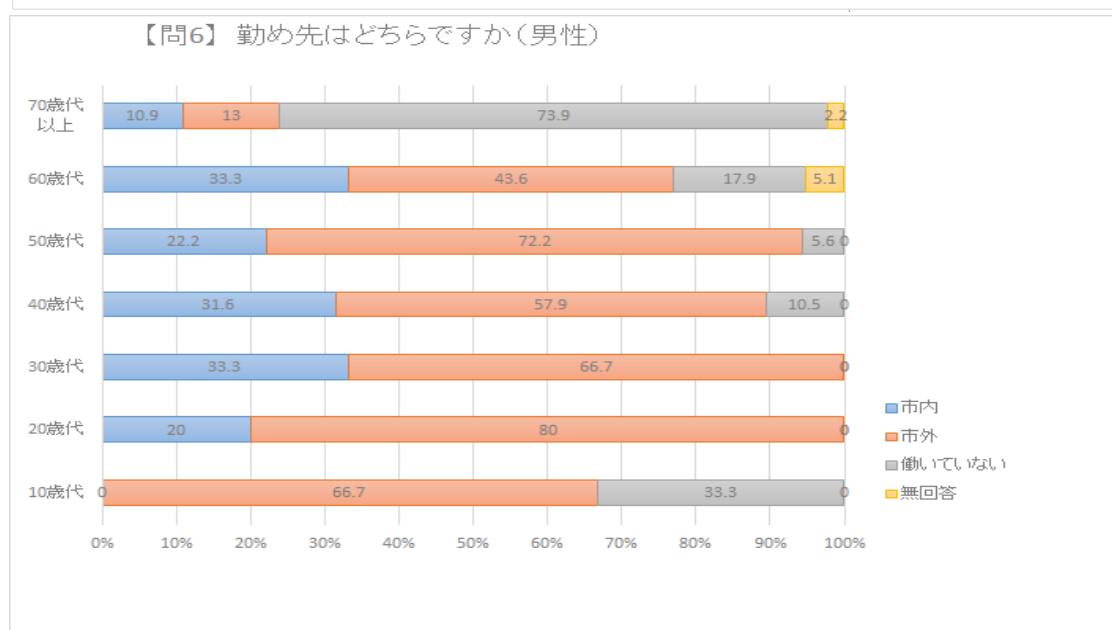
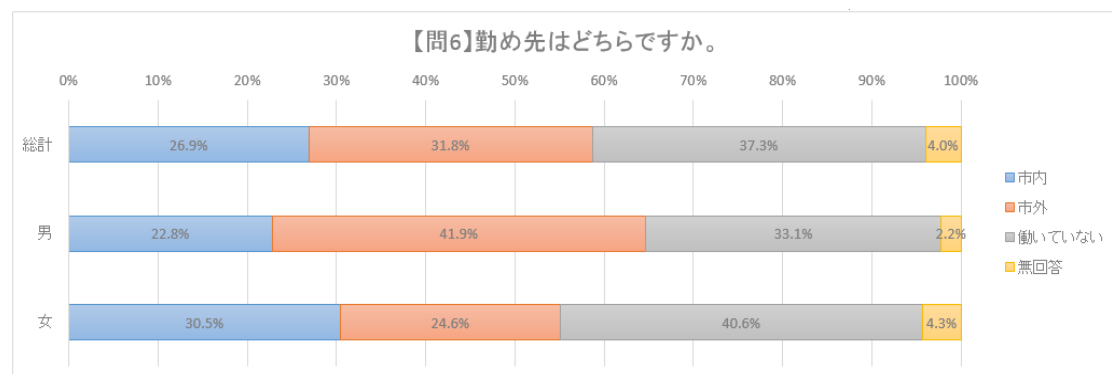


また、「一日に家事・育児・介護に携わる時間」については、男性は勤務日の家庭参加が少ないことから、「家庭を優先したい」と考える男性が多い一方で（p.6 参照）勤務日には家事等に携われていない状況にあります。

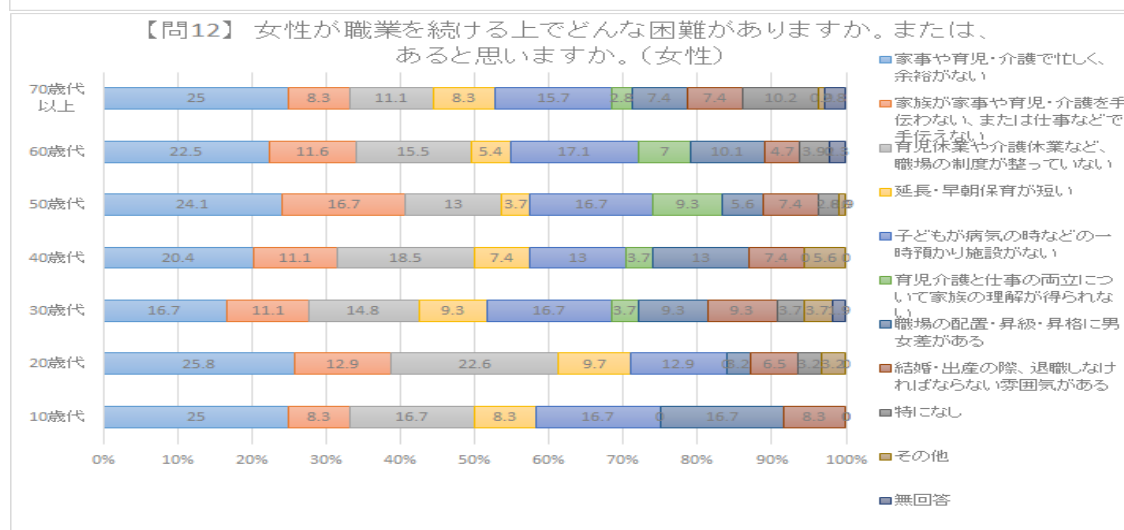
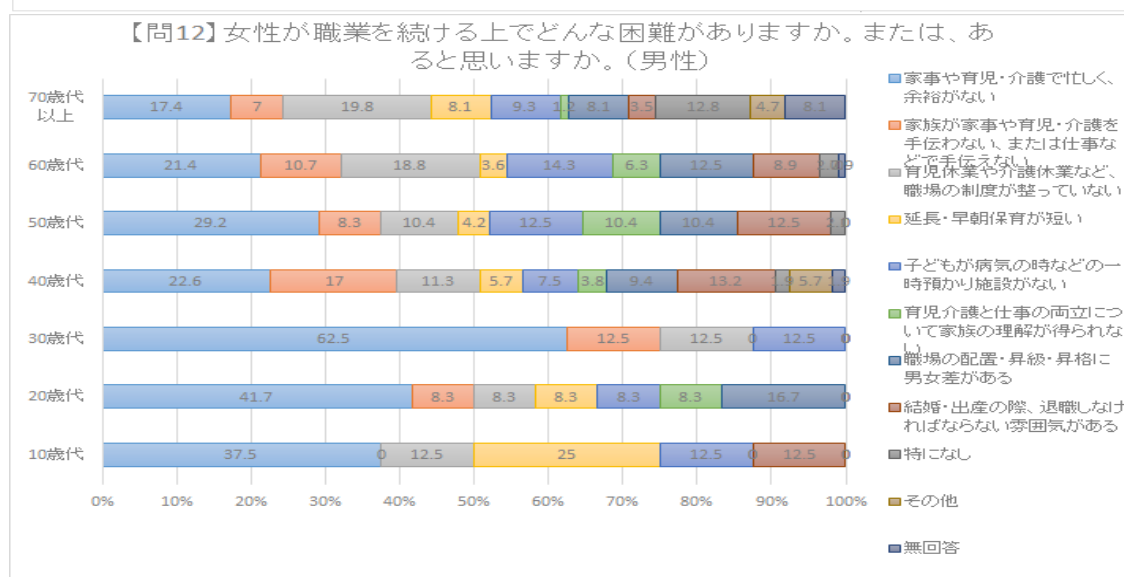
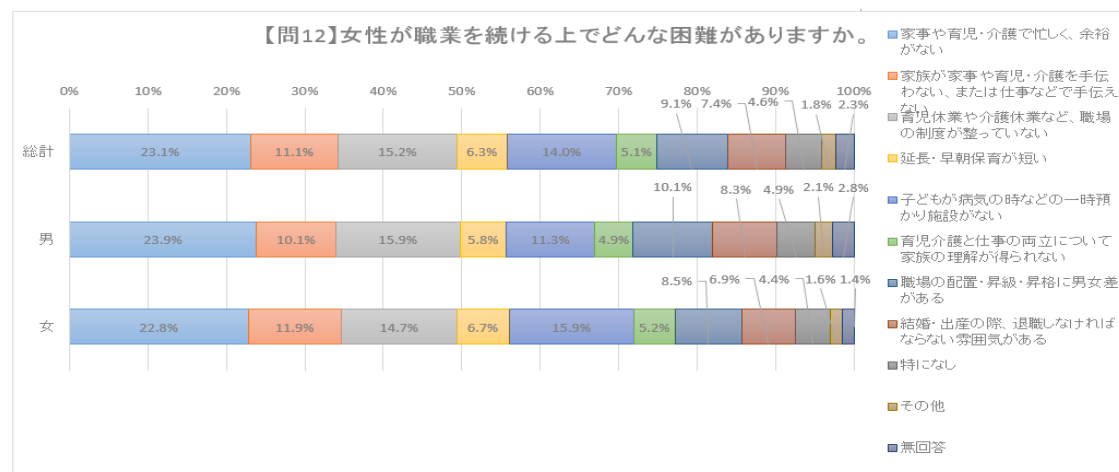


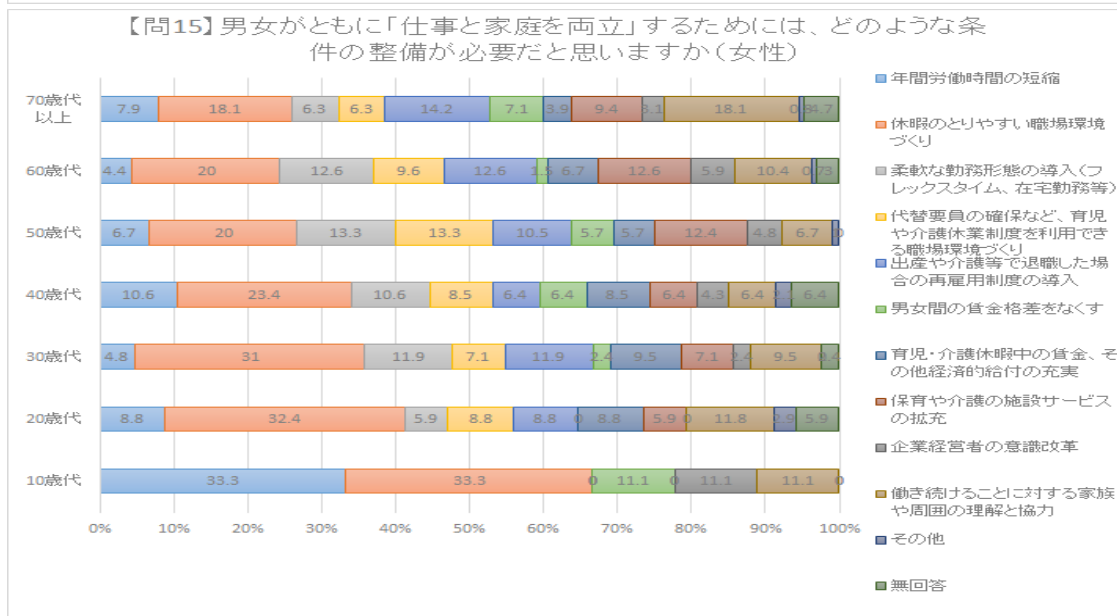
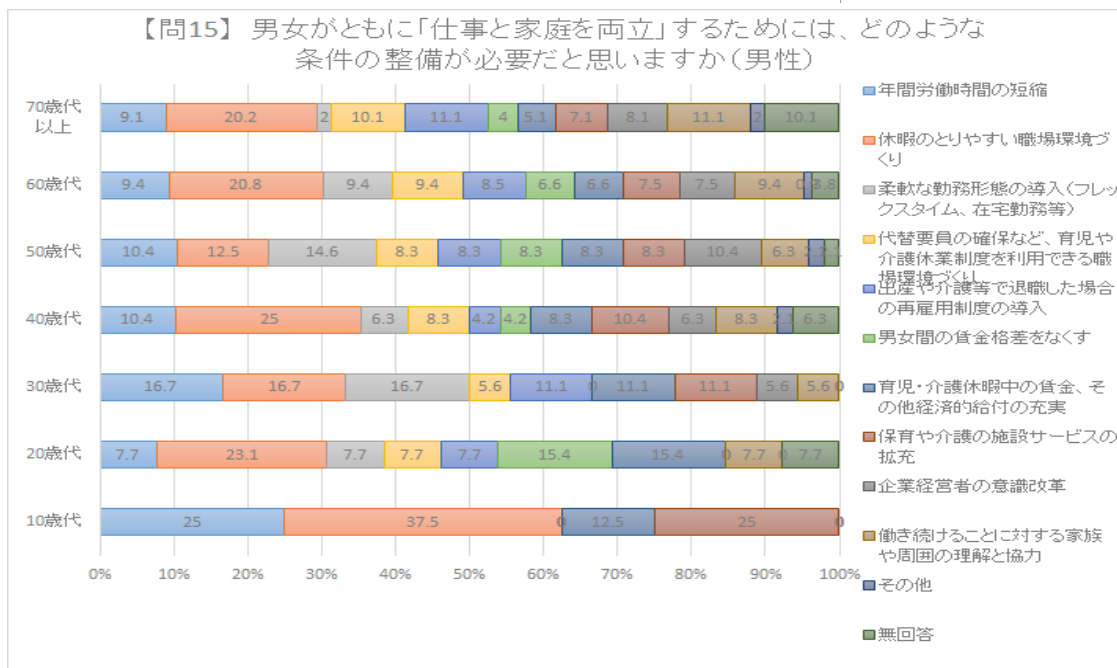
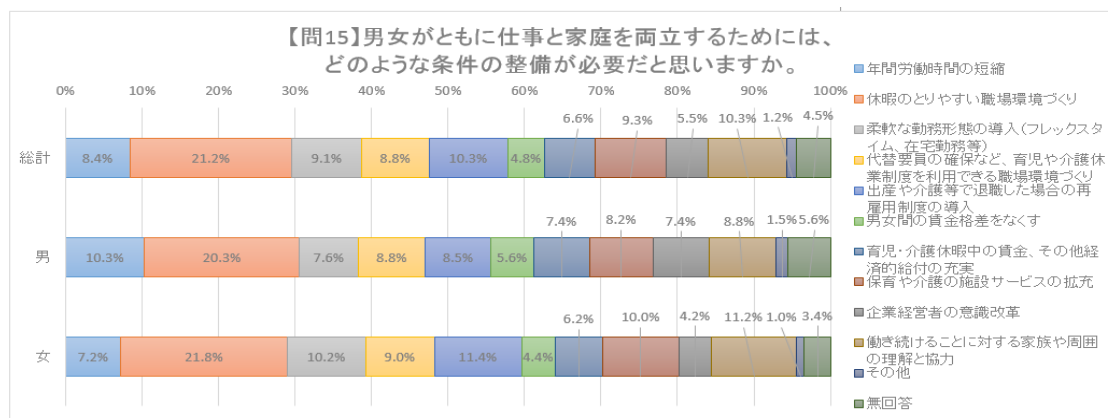
以上のことから、仕事と家庭のバランスについて、男女ともに理想と現状にズレがあると考えられます。

「勤め先の場所」については、男性は「全世代」で市外が多く、女性も「40代」までは市外勤務が多く、子育て世代が市内で働いていない状況にあります。通勤に時間を要する市外で働くことは、家事に時間が必要な世代にとって厳しい現状にある可能性があります。



「女性が職業を続ける上での困難」については、男女ともに「家事や育児・介護で忙しく、余裕がない」と「育児休業や介護休業など、職場の制度が整っていない」を挙げ、「男女がともに仕事と家庭を両立するための条件」については、男女ともに「年間労働時間の短縮」「休暇を取りやすい職場環境づくり」「柔軟な勤務形態の導入」を、さらに女性は「働き続けることに対する家族や周囲の理解と協力」を挙げています。



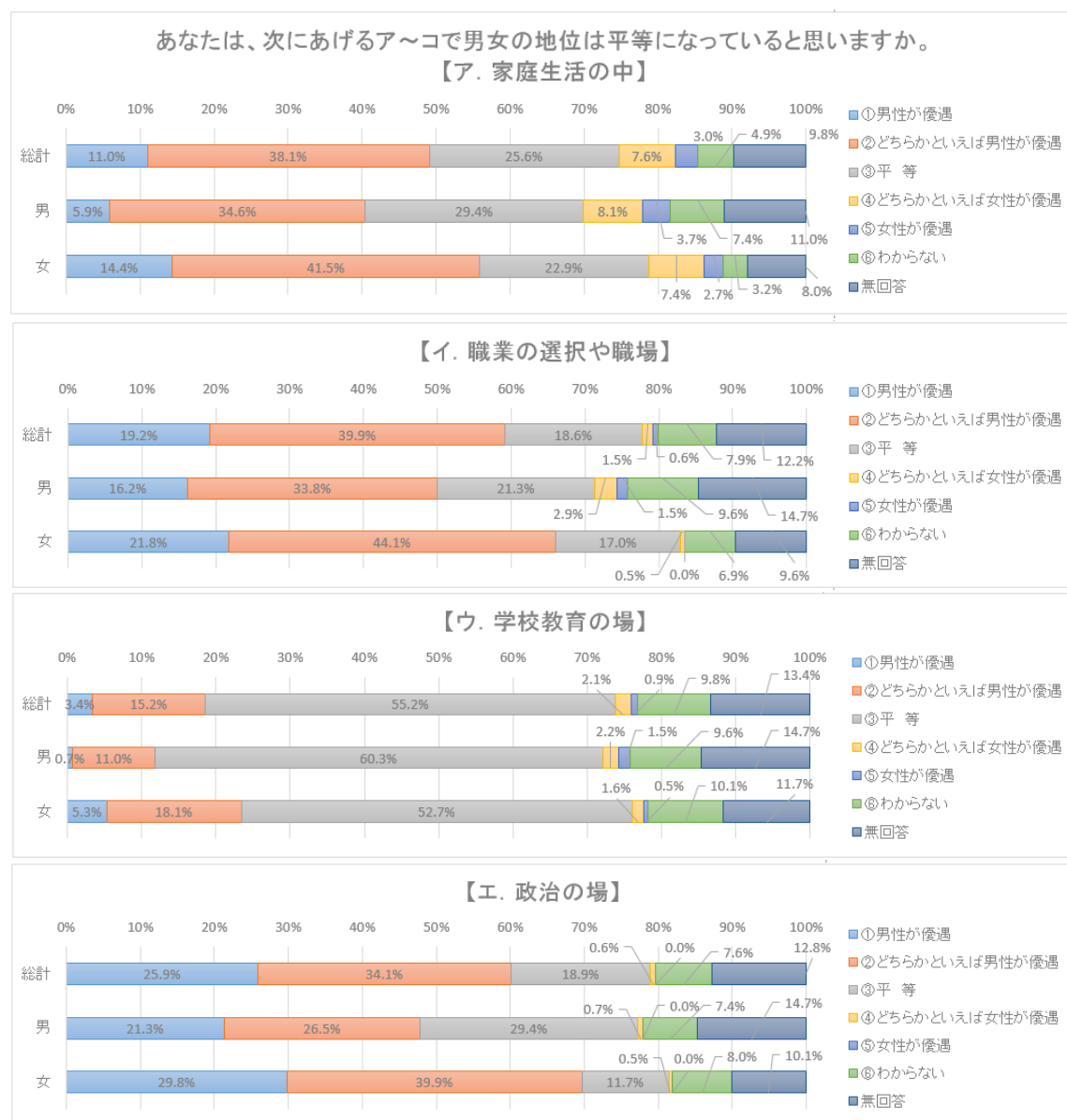


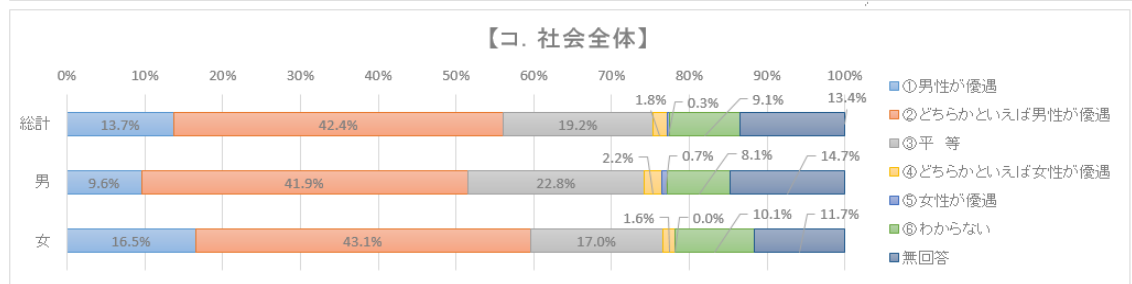
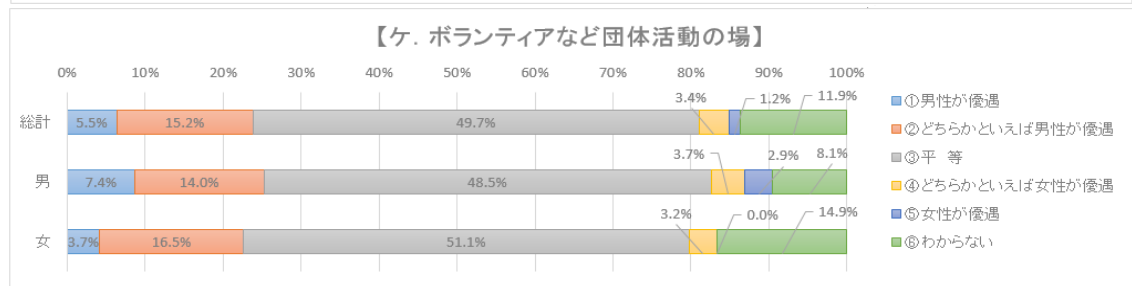
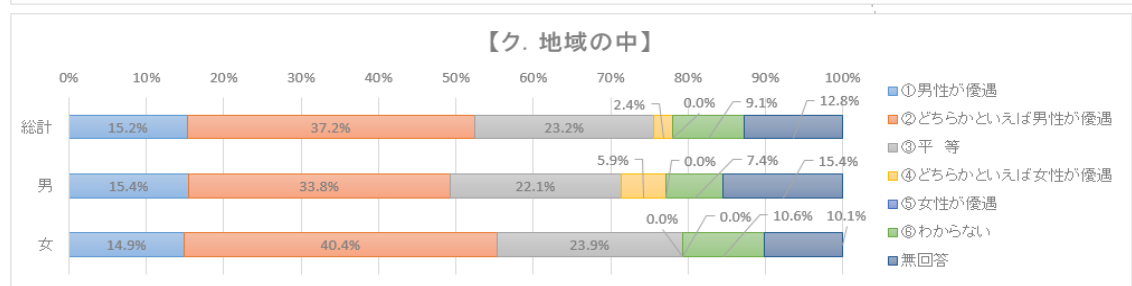
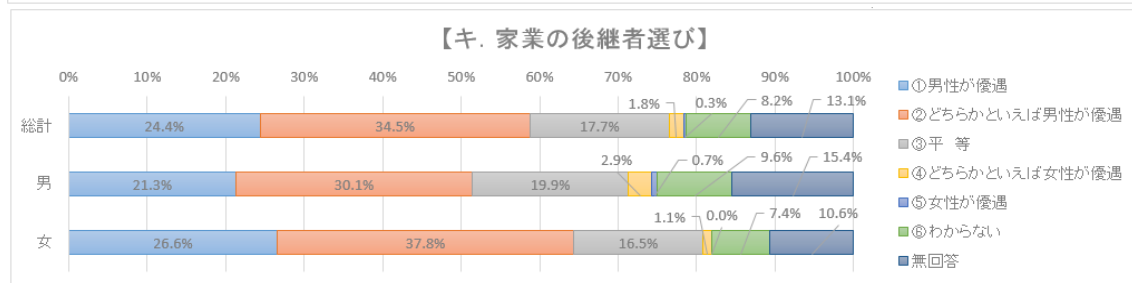
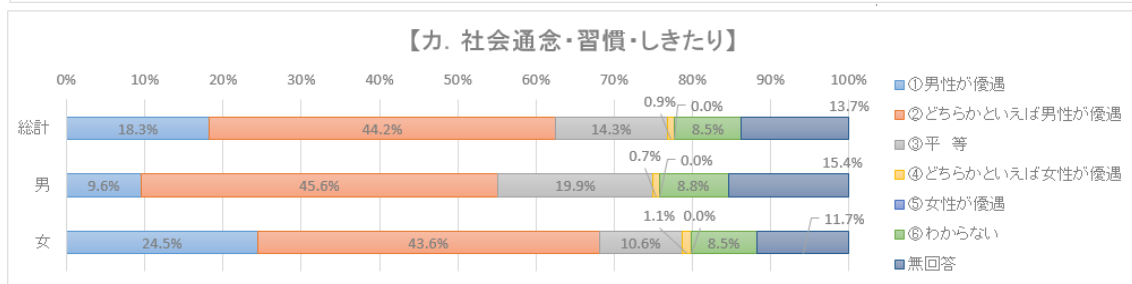
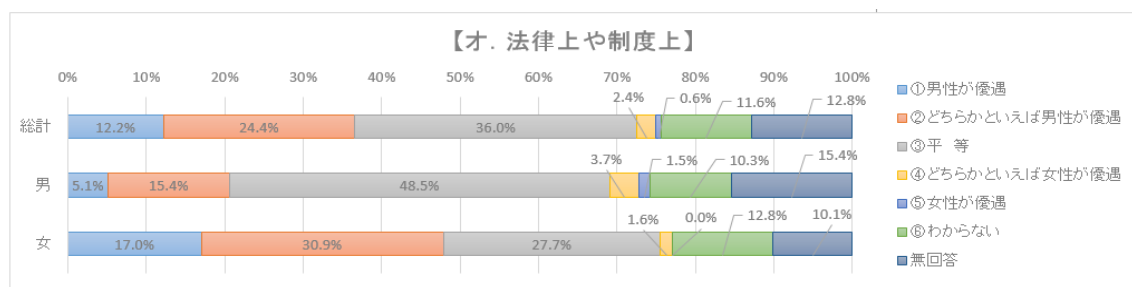
これらのことから、家庭に起因する休暇休業の取りやすい環境や在宅勤務等を含めた柔軟な勤務形態など、柔軟な職場の制度・意識を変える支援が必要と考えられます。

また、多様な働き方のできる環境づくりを進めるだけでなく、「生活の中で最も優先したいもの」（p.6 参照）で「家庭生活」を優先したいと答えた女性が男性と比べても多いことや、「女性の活躍とはどのようなことだと思うか」（p.7 参照）において、「家事や育児、地域活動などで活躍すること」を挙げる女性も一定数いることを踏まえ、仕事、家庭生活、地域活動等のバランスのとり方に対する、個々の価値観への配慮も必要と考えられます。

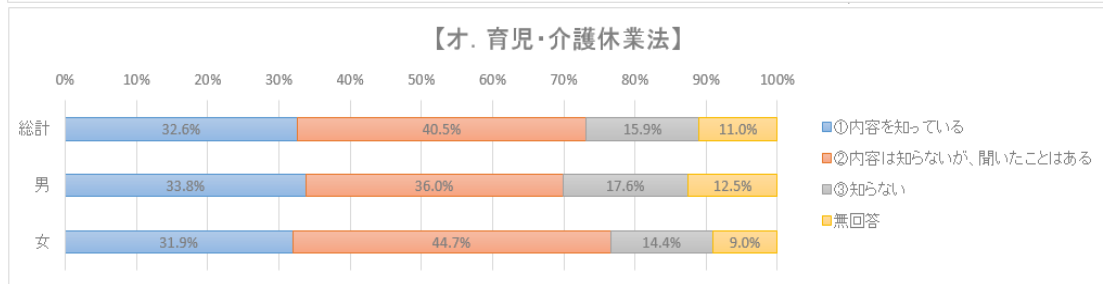
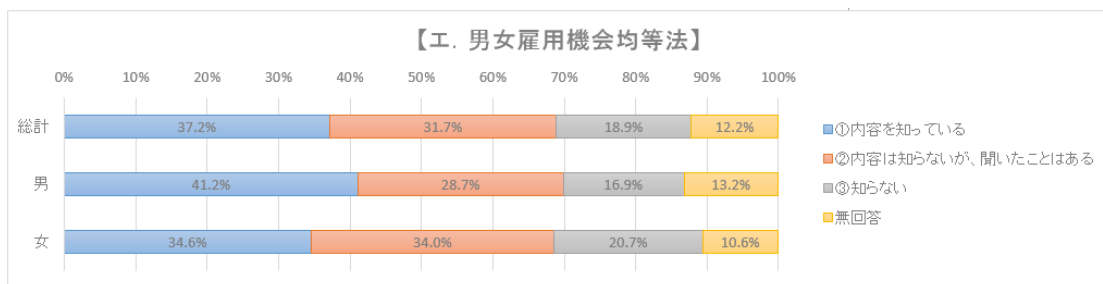
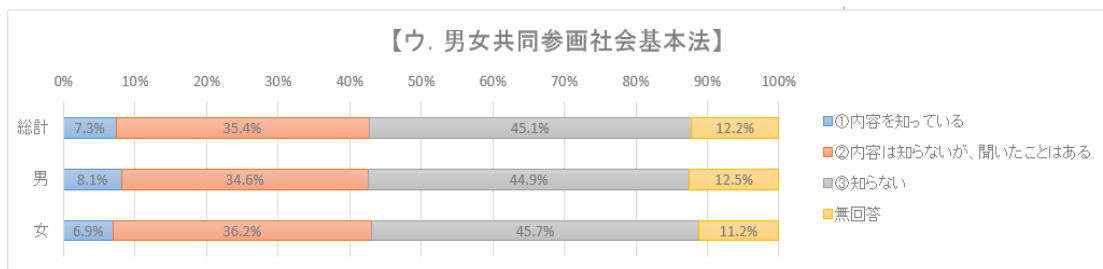
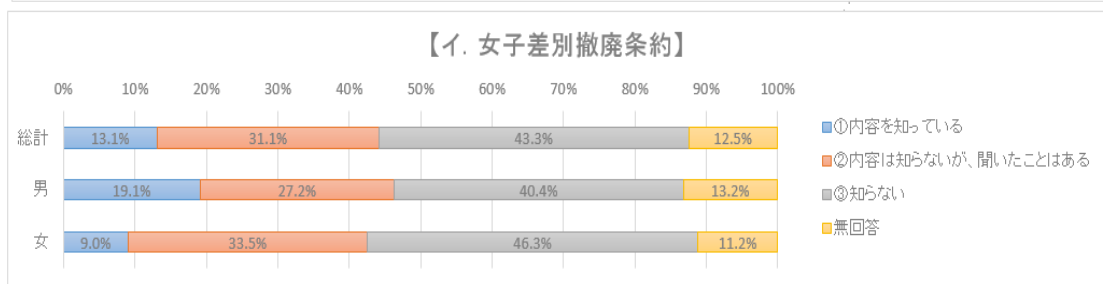
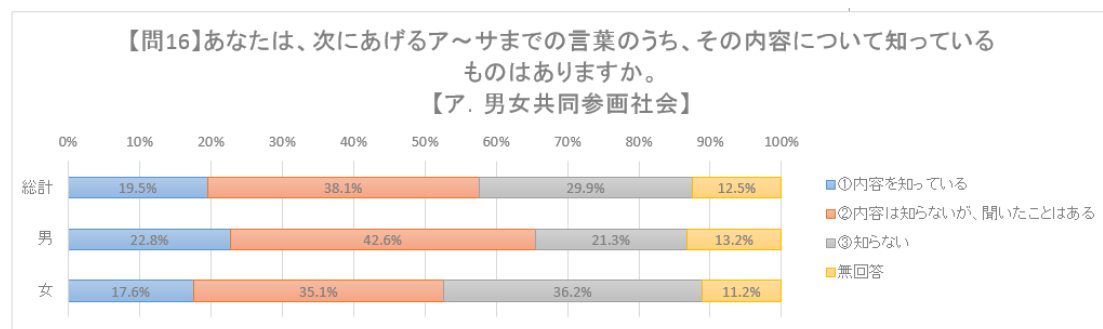
「各分野での男女の地位の平等感」については、「社会通念・習慣・しきたり」「家業の後継者選び」「地域の中」「社会全体」は男女ともに「男性優遇」と感じている人が多いです。

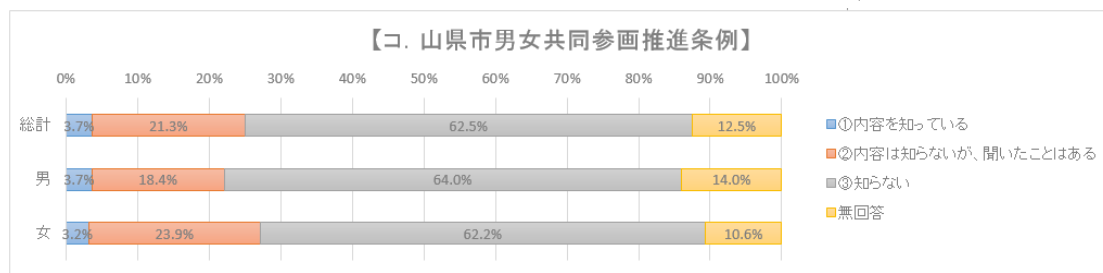
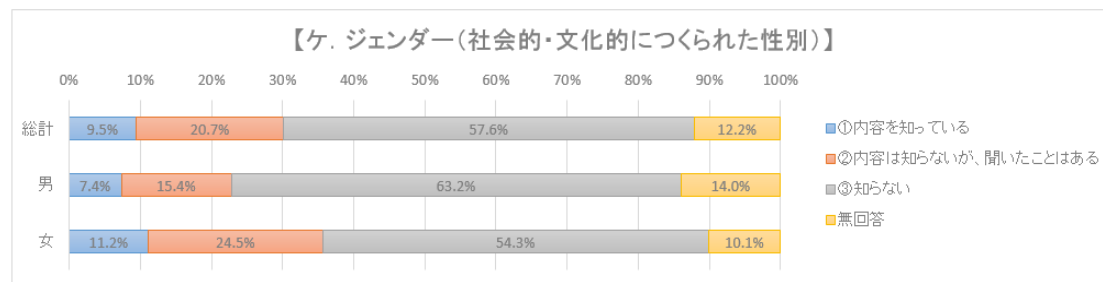
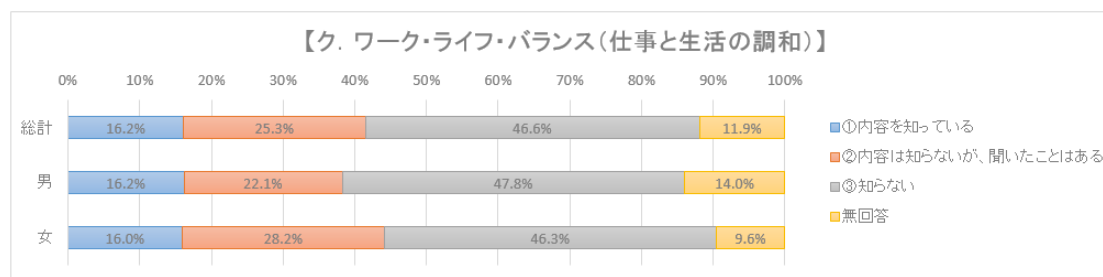
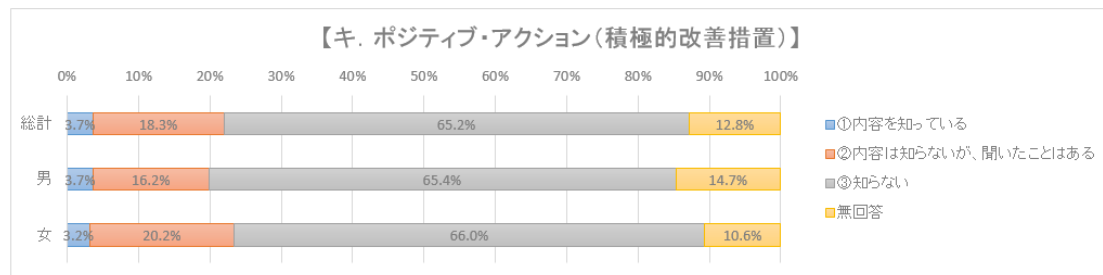
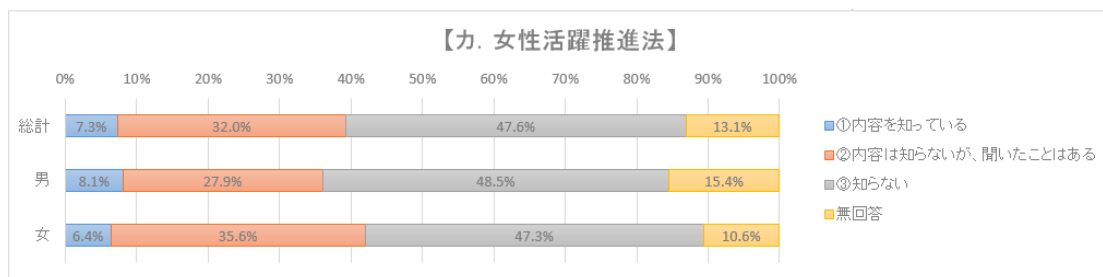
「家庭生活」「職場の選択や職場」「政治の場」「法律上や制度上」は、男性は「平等」もしくは「女性優遇」だと感じている人が多い一方で、女性は「男性優遇」と感じている人が「平等」と感じる人より多くなっています。男女ともに「平等」と感じている人が最も多いのは「学校教育の場」と「ボランティアなど団体活動の場」となっています。そのため、特に女性の多くは依然として社会の様々な分野で「男性優遇」と感じていると考えられます。





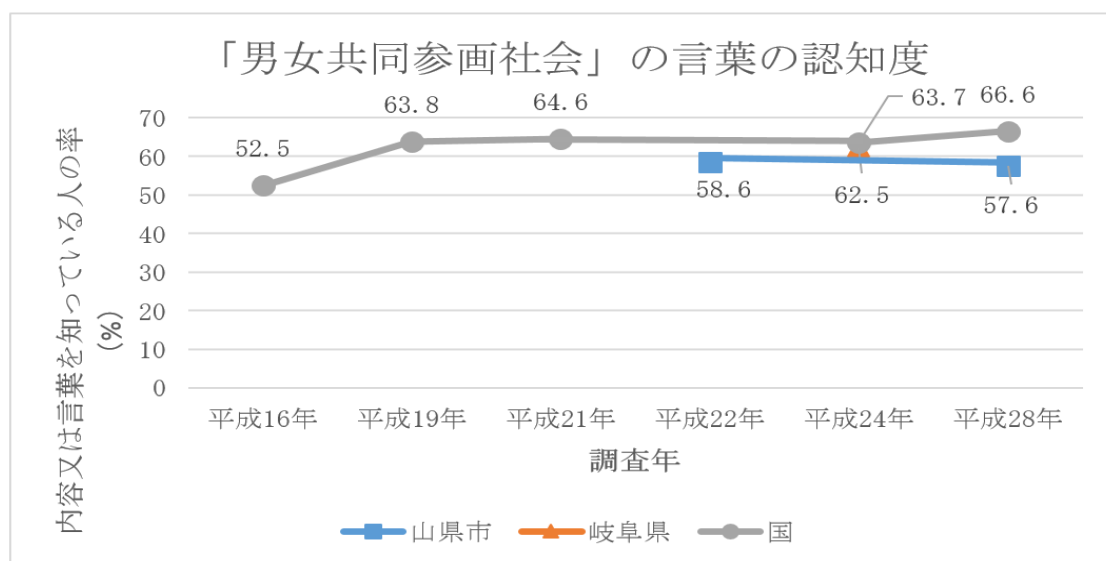
また、「男女共同参画に関する言葉の認知度」については、「内容を知っている」と答えた率が、平成22年の調査と比べ、男性は「男女雇用機会均等法」(42.3%⇒41.2%)「育児・介護休業法」(38.0%⇒33.8%)が低下、「ワーク・ライフ・バランス」(9.2%⇒16.2%)は増加しています。また、女性では「ポジティブ・アクション」(1.4%⇒3.2%)「ワーク・ライフ・バランス」(5.2%⇒16.0%)「ジェンダー」(8.9%⇒11.2%)が増加しています。全体として認知度は横ばいであり、男女の地位の平等感の結果も含めて、引き続き啓発を行う必要があります。



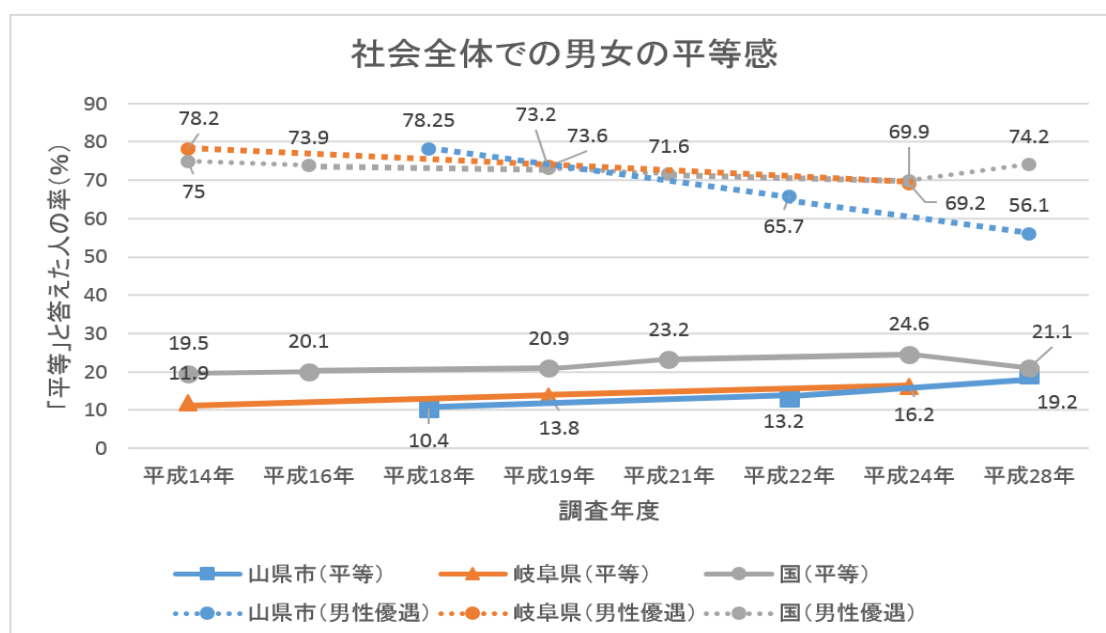


全国との比較による山県市の意識の特徴

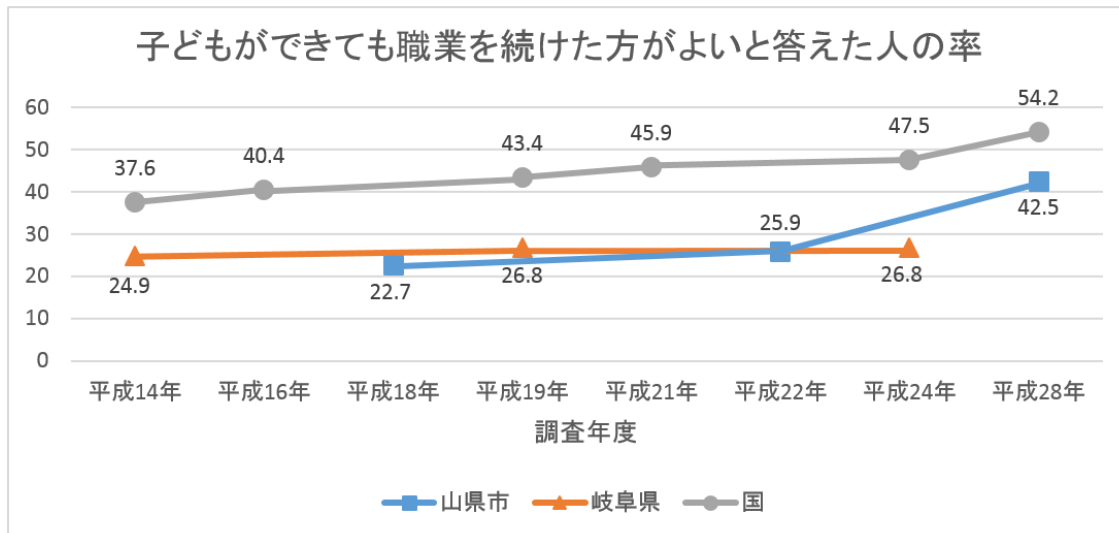
「男女共同参画社会」という言葉の認知度について、「内容を知っている」「内容は知らないが聞いたことはある」と答えた率は、国の調査（内閣府：男女共同参画に関する世論調査）では平成19年が63.8%、平成21年は64.6%、平成24年は63.7%、平成28年は66.6%となっており、県の調査（岐阜県：男女共同参画に関する県民意識調査）では、平成24年は62.5%と、国・県ともに60%以上で推移しています。それに対し、本市では、平成22年が58.6%、平成28年では57.6%と9%ほど低くなっています。



「社会全体で男女が平等になっている」と感じる人の割合は、国は平成14年の19.5%から平成24年の24.6%へと微増しましたが、平成28年は21.1%と減少しています。県は平成14年が11.9%で平成24年が16.2%、本市は平成18年が10.4%で平成28年が19.2%と、増加しているものの、国の水準には届いていない状況です。



「女性が職業を持つこと」について、「子どもができてでも職業を続けた方がよい」と答えた人の割合は、国が平成14年の37.6%から平成28年の54.2%まで増加しているのに対し、県は平成14年が24.9%、平成24年は26.8%と微増にとどまっています。本市は、平成18年は22.7%と低い値でしたが、平成28年は42.5%と急激に増加しています。



自由記入（原文まま）

【家庭生活や働くことに関する自由記入】

- 職業分野で女性が活躍するのに男性と同様の仕事をする必要はないと思います。女性らしい視点で行動することはできると思います。それを上司の人が又同じ仲間が正しく理解できるかによって活動の仕方が変わると思います。
- 男性の給料が家庭を持つことにより評価され、充実すれば女性は安心して子育てができると思います。子供の将来の教育費まで心配しなくてはいけないので、女性は若い内に無理をして仕事をして家庭内にストレスがたまるのだと思います。
- 息子夫婦が朝早くから夕方遅くまで働いているので今は少しでも手助けになればと思い草刈したり野菜を作ったりしています。
- 育児に対する市の援助は大切だと思うので、積極的に活動してほしいと思う。
- 生活を維持するために仕事はなんとしてもしなくてはいけない、そのためには家庭にいる女性が食事とか家庭での仕事、地域活動、育児や介護その他もろもろのことを手伝ってもらいたい、生活を維持するために特に田舎では昔からの古い文化やしがらみに対するもろもろの事を手伝ってくれるのが一番ありがたい女性は仕事などしなくてよい。
- 私は時代の古い者です。子供は 3 歳までしっかり親が育てるのが望ましいと思います。そのためには出来る限りの援助をしていただきたいと思います。
- 仕事をしている間デイサービスを希望。デイサービス中に調子が悪くなった場合施設の方が病院に連れて行ってくださることを望む。
- 仕事や家庭、地域活動など何を優先するのかは人それぞれの価値観だと思う。女性の活躍という言葉が気になります。男性は活躍していて女性は活躍してないのでしょうか？
- 自分の場合は子供が 5・6 年生になるまでは自分で面倒見たかったので、姑と入れ替わりでパートに出ました。ここの家庭状況は違いますが子供第一に考え 0 歳から預けて母親が働くのは違うと思います。
- 家族の理解と地域での理解（子供が小さいときは預けるところまたは両親の近くに住めるようなところ）
- 設問 15 あたりはすべて企業間平等から来る賃金格差に大きく影響されている。山県市でも積極的にほかに地域との差別化を図る産業育成に力を入れるべき。富める山県市を作してほしい。
- 若者にとって魅力ある仕事や職場が山県市には少ないように思われます。若い子たちの多くが家を離れて仕事をしているように思われます。
- 職場で働くことが出来るのは、家族や家庭の協力が一番だと実感している。一人の力で、出来ないことでも家族が力を合わせれば可能性は広がり、続けている。
- みんな平等でお互いに認め合う人間関係でありたい。
- 年齢制限があるので体力とやる気はあるのにやってみたい仕事に就けない。
- 働く以上は自分に与えられた仕事に精通する為の学習を怠らないこと。家庭においての家

事は本人の工夫次第で余裕は生まれる。

- 主人にもっと家のことをやってもらいたい。
- 男女平等などとしきりに叫ばれていますが、私は考えがとても古いかもしれませんが、男性は子供を産むことは決して出来ません。女性ならではの特権です。子育てはともに協力するべきですが、女性は子供がある程度成長するまで子育てに徹するべきだと思います。ほんの短い間です。子供はすぐ成長し親の元から離れていきます。その間しっかり子供と付き合い子育てをすべきです。それでは何故、女性は公共機関を利用して子供を預け働くのでしょうか？いろいろなケースがあるので一概には言えませんが、より良い豊かな生活がしたいためではないでしょうか？今の世の中どうしても働かなくてはいけない家庭などはないのでは？本当に男性は大変だと思います。女性は育児もして家事もしてなど大変すぎます。とにかく、育児家事に専念してある時期がきたらまた職場へ、そんな人たちを迎え入れられる職場社会になるといいですね。それから保育士さん介護士さんたちを優遇し給料をもっとたくさん上げてください。
- 昔に比べて共働きが増えた。
- 私の場合出産後 4 歳、園に入るまでは子育てを第一に優先し、仕事はしていませんでした。しかし、園に入ると子供がいない時間何かしたい外に出たいと思うようになりました。パートもいろいろありますが、平日で子供を見送った後の 12 時から 15 時までの仕事を見つけるのは大変でした。あっても土日勤務です。幸運にも私は平日の上記時間帯のパートを見つけることが出来ましたが、このような理由で働く意思はあっても働けない主婦のほうが多くいるのではないかと思います。生計のために働かなくてはならない方もいらっしゃると思いますが、世間から置いていかれるような気がするから、外に出たい主婦もいるのではないかと思います。
- 働いてもその分税金が取られてしまい、何のために働いているか分からなくなることがある。
- 私は仕事をやることは良いことだけど女同士の争いごとがあるので難しいことです。今は 80 歳を過ぎ又、自分の体のこと、色々人生苦労はあると思います。
- 短い時間のパートでは長時間パートより待遇が悪いこと、同じ仕事内容でも短時間というだけで休日（土日祝日）の時給が悪かったり、ボーナス等の支給がないことが不満です。
- パートでも長時間働けるように労働基準法を変えてほしい。（同一の職場で）103 万の壁を撤廃してほしい。正社員になれば、子供のことをないがしろにし、パートでは少ししか働かず、掛け持ちになるので結局働けない。
- 時代の変換とともに変わると思うが個々では出来なく家族、社会全体に見守られる様な社会を築いてもらうことが大切だと思う。
- 妊娠することで職場で、疎まれたりしてつわりも我慢するしかないことがありました。いつごろ休みを取るか聞かれみんなが気を使ってました。結婚や出産だけではありません。そこが分かっていないです。
- 家庭を持って働くことは家族のために働くことであるから、家庭内で互いに理解を深め助け合って生活するべきだと思う。

- 山県市内における雇用の場が少ないこと、市、財政の力の入れる場所、議員さんのお金とは。市をよくするための人がもともと持っているものの意味の違い、何のための議員さんか。社会はいつも見ているが、結果はどこも同じ。夕張と同じにならないような発言と行動があればいいと思います。
- 昔のような終身雇用、年功序列で働けたら（主に男性が）女性は外に出て働かなくてもよかったのではないかな。子供も、しっかりしつけることができたのではないかな。今は女性も働かなくては贅沢な生活を維持できなくなっている。何かおかしい。日本人としての道徳観念が壊れてしまっているのではないかな…と昔の教育を受けた私は思います。
- 子供には仕事をする 것과大切さとして、つらいこと、楽しいこと、自分らしさを親として表現したい。親は完璧ではなく、年を追うと、仕事内容や人間関係でつらい。そのつらさをどうやって乗り越えていくことができるのかを話したり、姿勢を見せていきたい。（実際、自分の体験を伝えていったり、子供のつらさや立場を少しでも分かってほしい。）
- 働いていることで子供に負い目を感じたくない。
 - 親は自分らしさをさせていきたい。
 - 子供の成長に合わせて、相談に乗りたい。
- 今の若い子達は専業主婦を選びづらいいのでかわいそう。男女の賃金格差がないから女子も仕事を続けなければ生活ができないのに、保育の問題で仕事を続けるのもつらそう。自分の子どもたちのことを考えると心が痛む。育児休暇が 3 年取れたりできれば子どもも育てながら仕事もできるのではと思う。（民間は 1 年だし、その後も病気でちょくちょく休んだり、遅れたり、会社がいやな顔をするらしい）
- 男性も育児休暇を取りやすい社会づくり
- 県外流入者ですが、3 年前に山県市に転入してきました。仕事を探し倒しましたが、『他所者』扱いされていることを近所づきあい、求職活動から感じた

【男女平等や社会参加、今後取り組むべきことに関する自由記入】

- 第 1 次山県市男女共同参画プランに参加しました。男女共同参画を充実させるためには、
 1. 家庭では
 2. 職場では
 3. 社会では
 等について検討すべきであるが、最初の会合の際お墓をどうしようか等の話になってしまい、参加をやめました。
- 何に対しても制限を設けない
- 私は伊自良地域に住みはじめて 25 年になりますがかなり少子化しておりますね。しかし教育の場が離れると住環境と仕事場のバランスが崩れ住みにくくなると思います。又、公共施設が十分活用されていないように思います。伊自良支所、伊自良中学、北、南小学校を統一し、小中一貫校にし、地震災害等に強い建物を立て、子供達の教育に力をいければ岐阜市近郊としての魅力ある町づくりが出来るのではないのでしょうか。
- 社会ではすでに女性参加しているのだから女性自身が積極的に活動してもらえれば結構かと思います。

- 住民を増やすためにも子供を育てるためにも女性は働かないほうがよい。もう 1 度 50 年ぐらい前の昔の生活に戻すことを考えたほうがこれからの日本のためにもよいと思う。
- 男性は何の意味もないプライドを持っていてたとえば老人が集まるような社協のいきいきクラブ等には行かない。女性がトップになってやることを嫌がる。そうしたことの解消に努めることが必要。
- 男女平等も大切だが性別にかかわらず、生き方の多様性を認める社会であってほしいと思います。
- 社会、地域環境、行政などが整備することがうまくいくのではないのでしょうか？ 家庭内でも助け合いの気持ちを持てばいいのでは。
- 正直まだ学生なので社会の中での男女差別は分からない、電車など女性優遇されていると感じることはあるが正直やりすぎなのではないかと思うこともある。
- 自治会や町内会の仕事で日曜休みではないのでどうしても主人の参加が出来ません、まだ男性の多い集まりには出にくく意見もいいつらい感じだと思います。
- 企業内保育を義務化し個人事業主以外の子供の保育は企業内にて行い、就労者と子供に給食を義務化すれば働き易く仕事をやめなくてよくなると思います。
- 昔より子供の数が少なくなっているので、地域で子供を育てる協力が出来れば良い。将来のために子育て支援、田舎の老人を大切に、若い人は都会へ出てしまうので田舎に残れるような企業の充実（働ける場所）が必要だと思う。
- 市のシルバー人材センターの充実をやってほしい。P.S お惣菜を作っている厨房には冷房がありません。皆ふらふらでの仕事です。扇風機はありますが、役に立つほどではありません。
- お手伝いできることがあれば参加したい。
- 子育て中の女性が安心して働けるように環境整備をしていく。地域で子育てをしていく組織作りがされると良い。
- 自治体、自治会それぞれの中で意識が変われるような取り組みが必要と感じます。
- 男女平等論に関して私は不平等が普通（一般）と考えております。不平等という言葉が的確な表現であるかという事に関しても疑問があります。
- 女性の意識改革が必要。女性が男性と同様に働くためには社会情勢を知るために新聞、テレビでも良いから、ニュース等に頼らず目を通すようにする。
- 今は昔と違って女の人仕事に行っているわけだから、男の人にももっと家のことをやって当然だと思う。男の仕事先から男の人にもっと家事を手伝うように促してもらいたい。
- 女性の自治会長、老人クラブ会長がいてもいいと思います。
- まだまだ、男性が子育てや介護のために、休みを取ったりするのは気が引けるような世の中の気がします。家族が病気になったときなどは、仕事に支障が出ない程度で休みを取らせてあげる職場の雰囲気作り、方針も必要ではないでしょうか。
- 男性も女性も結婚をしたい人がたくさんいる高富町も外の県同様に場を設けて男女互いに一生添い遂げて高富町を発展させ過疎を何とかしてください。
- 参画機会の充実、共働きがあるからそれぞれの活動が良い。

- 平等は根本的に無理があると思う。男性が働きやすい環境を作り、給料が上がり、妻や子供を養うのが良いと思う。家庭環境も良くなると思う。
- 女性は家に居て介護、子供と共に暮らしたほうが良い。
- 能力がある人、男でも女でも性別を意識することなく社会参加をするチャンスがあればいいのでは？女だから、男だからの考え方を変えてほしい。困った人に手を差し伸べる。その手を誰でも握れる。平等と意識しているようではまだだめな気がします。
- 現実的、現代社会において男女平等にものすごく差があるか分からない。仕事に関しては、やはり出産、育児において女性は一端離れることから誰かにどこかに迷惑をかけるため若干の差が生まれるのはやむを得ないと思う。その後の努力によって平等が生まれるのでは？
- 行動するための時間がとれる環境整備が必要だと思います。
- 何でもかんでも男女平等、社会参加というのはいかかなものか・・・男性、女性の性質を生かすことも大事だと思う
- どちらかといえば、学校、家庭教育の場での影響が大きいと思う。女性が男性を立てる風潮は昔は美德とされ、今でも身体にしみついている。女性が表に出ることは見苦しい。又、女性に尻にひかれた男性は情けないという固定観念はなかなか拭い去れない。しかし、男女一対でその相互の能力が発揮されるという社会構成は理想的だと思う。
- 企業が考え方を変えてくれないと、働く人がいくら法律や制度を知っていても社会に失望してしまう。企業に働きやすい職場（育休、介護休、年休がとりやすい）を作ってもらえるように指導、勉強などどうしてもらわないと
- 男女平等をいまさら議論せないかんのが「ナンセンス」なのではないでしょうか？

【男女共同参画に関する自由記入】

- 男女は平等であり差別をするのは良くない事は当然であるが、しかし一方男女は特徴がありそれを認め合うことも大切である。特に育児については子供は母親に育てられるのは自然であり、特に幼児期の子にとって母親はきわめて大切な存在である。従って私は子どもが最低小学3年生位までは母親が育てるべきであり、その間の母親の生計を助ける方法を考えてほしい。それがその子の感情の豊かさや性格の形成に大いに関係すると思う。計画を実効性のあるものにして下さい。
- 男女平等と言葉はよく聞くが、実際には女性が男性と同様に働くことはかなり難しいと感じる。子どもができていく休をとってみて特に強く感じた。短い期間でもいいので男性が気がねなく育休がとれるよう企業にももっと働きかけてほしい。
- アンケートの結果は必ず回答者に届けてほしい。
- 結果から今後の方向を知らせてほしい。
- むずかしい（聞きなれないことば）が問15等にあるのではないのでしょうか。回答者の立場に立って問いを出題してほしいと思う人がみえると思う。

- 問 10、問 11 は不快な質問でした。
- 分科会の方針なら、市民行政の一緒に検討すべきである。山口市社会福祉計画にも第 2 次まで参加しましたが、市民のみの参加で、一向内容が進まなかった。また行政が取り組む項目についてその内容を検討する機会がまったくなかったので、第 3 次計画には参加しなかった。
- 全てに於いて責任のある自由を持たせる
- 老人としては難しい質問が多かったです。男性には言えないような質問はありませんか？また、無職の者は遊んではおらず畑での仕事などをやっていますがそれを記入する欄がありませんでした。
- どうしても女性が働かなくてはならない金銭的理由があれば仕方ないが、男性が働くだけで金銭的にも生活が出来れば女性は働かないほうがよい。家庭での夫婦円満のためにも男性の協力のためにも、両方が働くとお互いに不満だらけになる、最終的にも離婚の可能性にもつながるから。
- 60 歳以下の働いている人の参加が重要で、若い人にどう浸透するかがカギとなる。行政は規則で縛ることなく、お金は出しても口は出さないことが重要（例メールや twitter など誰かに呼びかける、若い人は押し付けには反発するが自分たちの言い出したことには積極的に参加するので、そういうところに助成金を出すなど）
- 働きたい女性が心配なく働ける社会であってほしい、働く女性が社内で男性との差を生じることのない企業の取り組みが知りたい。
- 男女平等というがそんなものは無理だと思う。そもそも人によって得意不得意、体格差、頭のよさなど差が存在しているので、男女共同参画を言うよりも、人の長所を活かせる職場作りや、その人に適しているか確かめる方法を確立したほうがいいと思う。職を持っていないので分からないが、ある役職に求められている力が男女ではなく、人として判断されて任命されているのなら、男女共同参画は出来ていると思う。
- 男女共同参画そのものを知らない人が多くいるような気がします。市のほうが中心となって選挙などのように街頭に出てスピーチなどを利用して市民にもっとアピールしたらどうですか？
- 男女共同参画を知らず、検索をして始めて知りました。アンケートによりこういう質問なのだと思われ、身近に感じられず、山口市に 27 年ほど住んでいますが多くは望みません
- われわれの年代から見ると、男女共同参画には程遠いと思う。第三次共同参画に向けて（女性の社会進出がある程度進んだだけで）より男性の理解が必要と思う。実現のための目標だけに終わらない様願います。
- 若い方での共同参画会議。
- 女性が安心して働けるように条件を整備していくことから男女共同参画の実態につながると思います。市のイクボス宣言などは力強い宣言です。
- 内容は分からないが、聞いたことはあるのに内容が分からないという条例や法律がたくさんありすぎだと思う。非常に分かりにくいものばかりだと思う。行政側としてもっとしてほしい、もっと意識してほしいと思うなら、マスコミなどのメディア等を通して、情報

（例えばグラフ化にするなど）を分かりやすく老若男女問わず発信する義務があると思う。だからこんな税金の無駄遣いのアンケートを送付してきているのだと思う。とにかく行政側の努力のなさが、露見されている条例や男女共同なんとかばかりだと思うのでもっと市民に分かりやすいものになるよう努力してください。

- 昭和30年代始めに卒業してから大就職難に直面し働くということの苦労を知りました。以後結婚、離婚などを経て子育ての大変な時期を乗り越えてきました。今の時期に働ける女性は恵まれています。でも、1人親が働くのは大変です。どうか、結婚して子供の育児と家事で働き続けるためには両親双方の親、近所のお年寄り等を頼りにすることが大切だと思います。尚、1人親の働く中学生のために児童館のような施設を建てることを検討してください。
- アンケートも大事だと思いますが、もっとほかにアクションを起こしたほうが良いと思います。これからどうなるのか期待しています。
- 女性が家事、育児、介護をする社会は昔となんら変わっていない。今後、介護が重くのしかかる社会になってゆく現実で、男女共同参画なんて言葉が重要視されることに現実との大きな相違を感じ、机上の空論にならないことを望みます。
- 女性の活躍には、家族の理解と協力が必要です。夫の意識が問題だと思います。
- 結婚したら夫の名前でいろいろな手続きが進めれてしまうのを変えてほしい。
- 50年前の生活と今の生活の環境が違いすぎるためあまり良い回答が出来なかった。
- ずいぶん、若い夫婦はまた違いと思いますが、女性がもっと自分の意見を言える、考えを認められる社会であってほしいです。
- 男女共同参画は海外のライフスタイルに合っていると思うが日本には合っていない気がする。外国の真似ばかりでは良くないと思う。仕事もして、家事も育児もするのは女性の負担を増やすだけ、世の中の男性の全てが家事育児を手伝うとは思えない。
- 地域の活性化、活力を求める。老後に社会参加、貢献できる身近なところを望む。
- 皆、女の人から生まれてくるのだから女の人がいなかったら人口が増えないことを考えてほしい。そして、ストレスがあったら子供は産めない事も考えてほしいです。
- 上にたつひとが理解しないと、社員にまで理解できない。その意味がない。企業や市民も参加して、いろんな人で話をしないといけないと思います。
- 子育てをしている女性がもっと働きやすいように、支援を充実させたり、働きやすいように企業への支援が大切だと思います。
- 男性にしか出来ないこと、女性にしか出来ないこと、それをふまえて平等、共同を考える必要がある。何でもかんでもではなく、それぞれの家庭、職場の環境に準じた策定ではと思う。大切なのは男女共に常に意識を持つことを育てることだと思う。
- 男女平等の職業に20年間ついていました。しかし、仕事と家庭のバランスが上手に取れなくなり、考えた末退職しました。そのとき子供は中学生2人でした。退職して収入はなくなりましたが、子供の話聞く時間はたっぷり出来ました。今子供たちは大学生になりました。今考えて私の場合は退職してよかったと思います。上手に夫婦で家事の分担して、だんなも何の苦もなく食事の準備も洗濯もして、その結果お母さんはちゃんと子供と

向き合う時間があるのが収入から考えても一番いいのですが、私の場合は苦しくなってしまったので。子供が大きくなって思うことは、いくら男女平等でも子供にはお母さんの存在は大きいということです。

- アンケートが形だけのもので終わらないでほしいです。行動ができるためのものと信じて、記入しました。
- 自由にものが言え、いろいろな意見が出せることで幅広い視野で企画が進めていけるとよいと思う。先入観のない新しい感覚で自由な発想が出せたり、現実や経験を良く捉えた堅実な意見が融合していけば、この町の魅力をもっと引き出せると思う。長く続けることの価値を認め、尊重していくことでモチベーションを維持していきたい。
- これ、憲法第 25 条とちゃうの？いちいち議論する意味が分からん。お役所においては恐らく男女が共同参画していると思っておりますのでそれを民間に浸透させればよいことかと思いますが？